

七月三〇日

午後、二川幸夫伊東豊雄両氏来宅。夕方G Aにて対談。伊東豊雄の「表現が消えている。久し振りに石山らしい建築。でも部分部分に興味的などころがある」二川幸夫「精度に問題がある。」と言う批評をいただいた。

「ここしばらくは芸術家としての表現活動であった。」という伊東さんの評は正しい。この人の分析力はつねに正常に働いている。本来なら未完の状態で見てもらうのは失礼だと思つたが、二川幸夫の今しかないの直観にゆだねた。伊東さんもこんなボロボロ状態で見せやがつてと思つたに違いないが、そこはゆとりで大人の批評をしてくれたように思う。

七月三十一日

朝、久し振りに地下でゆっくり紅茶を飲んでいたら、すっかり十時の大学への来客の予定を忘れてしまった。十一時あわてて研究室へ、渡辺夫妻が辛抱強く待っていて下さつた。まことに面目ない。

杉並善福寺に家を建てたいのだと言う。黒テントの関係者らしく、人脈もだぶっていて、ちこくもしたしこれは断れない。八月、佐賀行前にプレゼンテーションできたらと思う。キッチンが作業部屋のようなというのと、子供三人夫婦二人の仕事部屋が欲しいと言うのがユニークだった。劇団の楽屋のようなと言うのを聞くと現場感覚が好きなんだろうと思う。